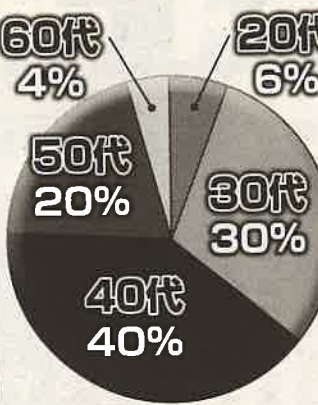


「たこえ夫に不倫されていても、セカンドパートナーに話を聞いてもらえて寄り添ってあげれば、私には彼がいるから」と、家庭での不満が気にならなくなるという人も。疎ましかった夫に優しくできるような

「セカパが欲しい」
6割以上が中高年

「セカンドパートナーを
求める人」の年代比

(「Healmate」会員約30万人の年代比)



出典/レゾンデール株式会社

「幼なじみや学生時代の友達が年齢を重ねてからセカパになることが多く、よく知った相手だからこそ本音をぶつけられる。女友達とは違った視点で話を聞いてくれる、マウントのとり合いになる心配もありませ

ん」(秋山さん)
ただし、中には「一線を

になり、かえって夫婦仲がよくなる人も少なくありません」(岡野さん)
都内の工場パート勤務をしている福島佳子さん(54才・仮名)は、3年前から「高校時代の元彼」とセカンドパートナーの関係だ。お互いの子供が偶然同じ高校に入学したことで再会したのがきっかけだという。

「お互い家庭内別居状態で、思春期の子供の扱いに悩んでいて、共通点が多かったんです。あくまでも、高校時代の友人として、彼と彼の娘、私と私の息子の4人で

交流しています。お互いに悩みを共有し合えるだけで充分楽しい」
一線を越えれば離婚事由にも
福島さんのように、子育てがある程度ひと段落して更年期を迎える中高年になってセカンドパートナーを求める人は多い。事実、Healmateは会員の半数が40代で、次に多いのが30代と50代で、60代の利用者も一定数いる。

「仕事や家事に忙殺され、自分の存在意義を見失いが

●「DV」「男女不平等」から逃れる「時の癒し」に
●かえって夫婦仲が良好に
●法的トラブルに発展するリスクも

ちな中高年女性にとって、自分を理解し、思いやつてくれる存在は大きな助けになります。



か

セカンドパートナーがやってきた

第2次 友達以上不倫未満



「セカンドパートナー」と聞いて、あなたは何を思い浮かべるだろうか。不倫、浮気、そう思う人もいるだろう。いま中高年女性の多くが求めているのは、そんな「不埒」な存在ではない。「友達以上、不倫未満」のプラトニックな「人生のソウルメイト」なのだ。

「不倫」は、生涯を誓ったパートナーへの裏切り行為だがいま、夫や妻を裏切ることなく、「2番目の伴侶」すなわち「セカンドパートナー」を持つ人が中高年を中心に増えている。

セカンドパートナー(セカパ)の名づけ親としても知られ、「友達以上、不倫未満」(朝日新書)の著者でジャーナリストの秋山謙一郎さんは、第2次ブームが到来していると解説する。「セカパの最初のブームは02年頃。ドラマ『婚外恋愛』(テレビ朝日系)など、既婚者同士の恋愛を描いた作品の流行などが影響したと考えられます」

女性の方がセカパを求める

セカンドパートナーを求める男女が集う既婚者限定のマッチングアプリ「Healmate」では、23年末に約5万人だった会員数は、翌年11月に約25万人、現在は約30万人にものぼり、わずか1年で会員数が5倍になった。同サイトを運営するレゾンデール代表取締役の磯野妙子さんは「婚外恋愛ものの作品が増加したことに加え、コロナ禍が後押しした」と話す。原作漫画は累計125万部を超え、24年にPrime Videoで配信されたドラマ『1122 いいふうふ』も婚外恋愛をテーマにして話題となった。

「おうち時間が増え、サブスクの動画視聴サービスやウェブマンガなどのエンタメに触れる機会が多くなったことも一因でしょう」(磯野さん)
前出の秋山さんは、経済状況との相関を指摘する。「経済的な見通しがきかないときは、社会や将来に対する不安を覚えやすくなり、セカンドパートナーを求める人が増えるのではないかと考えます。配偶者や親族には吐露できない気持ちをセカンドパートナーに共有したくなるのでしょう」